

## 平成17年度科学研究費補助金実績報告書

平成17年10月20日

文 部 科 学 大 臣 殿

				課題番号	1	7	5	3	0	0	6
主催団体 所在地	〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル										
主 催 団 体 名	社団法人 日本動物学会	代表者職名	東京大学・大学院総合文化研究科 ・教授								
		代表者氏名	浅島 誠 印								
シンポジウム・ 学術講演会名	市民向け特別シンポジウム 「身近な動物の不思議」										
実施主体 (支部等)	日本動物学会第76回大会 準備委員会	代表者職名	筑波大学・大学院生命環境科学 研究科・教授								
		代表者氏名	高橋三保子								
開催日	平成 17年 10月 8日 (土)										
会場名	つくば国際会議場 (EPOCAL TSUKUBA) 開催地：茨城県つくば市竹園										
参加者数  (参加予定者数)	420人  ( 500 人)										
費目別収支決算表											
実支出額の 使用内訳	合 計	会場借料	消耗品費	その他							
	1,100,001 円	188,520 円	285,481 円	626,000 円							
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合 計	会場借料	消耗品費	その他							
	1,100,000 円	280,000 円	220,000 円	600,000 円							

シンポジウム・学術 講演会の目的	<p>日本動物学会第76回大会の最終日は、学会員の研究発表と平行して学会を一般公開とし、ポスター展示を中心とした一般市民向けの「動物学広場」と、高校生の研究のポスター発表を企画した。この市民向けシンポジウム「身近な動物の不思議」は、一般市民の学会参加の一貫として計画されたものである。周辺の方々が家族ぐるみで動物学会に参加し、身近な生き物の面白さに触れ、さらに日本の動物学の研究の最先端を知っていただければと考えて本シンポジウムを企画した。</p>
---------------------	--

シンポジウム・学術 講演会の概要	<p>次の講演者および公演内容で講演会を開催した。</p> <p>1) くっついて飛ぶのは仲良しだから？ —トンボの交尾と産卵— 渡辺 守（筑波大学生命環境科学研究科）</p> <p>2) カカトアルキってどんなムシ？ —88年ぶりに発見された新昆虫— 東城幸治（信州大学理学部生物学科）</p> <p>3) ヒトと昆虫、目がいいのはどっち？ —チョウが見る色のふしぎ— 蟻川謙太郎（横浜市立大学研究院）</p>
---------------------	--

主催団体の 事務 連絡者	<p>〒 113-0033 所属・職名 社団法人 日本動物学会事務局長 氏名 永井 裕子</p> <p>TEL: 03-3814-5461 (直通) (内線 ) FAX: 03- 3814- 6216 E-mail: zsocj@a1.rimnet.ne.jp</p>
--------------------	--

平成17年度科学研究費補助金実績報告書

平成17年 8月19日

文 部 科 学 大 臣 殿

		課題番号						
		1	7	5	3	0	0	7
主催団体	〒113-0033							
所在地	東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル							
主 催 団 体 名	社団法人 日本動物学会	代表者職名	会長					
		代表者氏名	浅島 誠 印					

シホ・ジウム・ 学術講演会名	親子で楽しむ動物学7 津軽の海・山・川の動物たち：見てみようさわってみよう身近な動物たち							
実施主体 (支部等)	日本動物学会東北支部	代表者職名	支部長					
		代表者氏名	山本博章					
開催日	平成17年 7月31日(日)							
会場名	弘前大学 開催地：青森県弘前市							
参加者数  (参加予定者数)	82人  ( 80人 )							
費目別収支決算表								
実支出額の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	その他				
	800001円	30274円	730975円	38752円				
交付申請書 に記載した 補助金の 使用内訳	合計	会場借料	消耗品費	その他				
	800000円	100000円	550000円	150000円				

シンポジウム・学術講演会の目的	<p>現在、子供達の理科離れが問題になっているが、理科離れを防ぐためには、大学教員などの専門的知識を持った人たちが子供たちと直接接し、印象に残る話や実験をやってみせることが必要であると考えられる。特に、普段見なれている動物を対象に、今まで知らなかった話や実習をする機会を持つことは、子どもたちに興味を抱かせるのに有意義である。</p> <p>陸奥湾に棲むホタテやヒトデ、白神山地を流れる川の中の魚たちと昆虫、山の昆虫たちの生態、クマ・カモシカの生活、マタギの話を紹介し、子供たちに動物がお互いに影響しあいながら生活していることを考えてもらうところにこのシンポジウムの目的がある。</p>
シンポジウム・学術講演会の概要	<p>本シンポジウムでは、小学生とその父兄82人を対象に、青森県の海・山・川の身近な動物たちの相互に影響しあう行動について分かりやすく解説したのち実習・観察を行った。参加者は予定数を少し越えた。</p> <p>東北大学浅虫海洋生物学研究センターの経塚啓一郎助教授の講演「小さな命の誕生 ウニの発生」では、ウニの受精から幼生、成体になるまでをスライドで見せ、一つの卵が分裂をくり返してウニになるまで変化していく不思議さを解説した。また、実習「ホタテガイについて知ろう」は、ホタテガイの生殖、形態やヒトデとの関係を解説した後、実際に解剖してその内部構造を観察し、普段見なれている食べ物としてのホタテガイを別な観点から認識してもらった。特に、実体顕微鏡で拡大してホタテガイの構造を見ることに子供達は新鮮な興味を示した。</p> <p>青森県立郷土館の山内智学芸主幹は「山や川にいる動物たちの不思議発見」と題し、白神山地を例に取り、餌となる昆虫とそれを食べる魚の関係、トビケラの器用な巣作り、白神山地の固有種（昆虫）は何故生き残れたか、マタギと狩猟の話などを紹介した。話の内容が非常に興味深く、講演が終わるまで子供達の注意を惹き付けた。</p> <p>実習では、農学生命科学部の中庭に出て、あらかじめ用意しておいた腐葉土の中に棲む小さな生き物たちをシャーレの中に採集した。また、展示室では話に登場した動物たちは勿論、話に登場しなかった動物もできる限り見てもらい、さわってもらい、津軽の動物たちを実感してもらった。</p>

主催団体の 事務 連絡者	〒 113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 所属・職名 社団法人 日本動物学会事務局長 氏名 永井裕子	TEL: 03-3814-5461 (内線 ) FAX: 03-3814-6216 E-mail: zsocj@a1.rimnet.ne.jp
--------------------	--	--

支出	
会場代	30274
ポスター、チラシ、要旨集	259140
実習器具	469235
文具その他雑費	38752
材料(ホタテ)	2600
合計	800001